

コンセプト

KALDIをはじめとする輸入食品スーパーの次世代型サービスとして、「**フードシェアカウンター “MIKKE”**」を提案する。

買い物で最もワクワクする瞬間は、魅力的な商品を見つけて手に取ったときである。しかし、価格や内容量が生活スタイルに合わず、購入を見送ってしまい、せっかくのワクワクが消滅してしまうことがある。

「フードシェアカウンター “MIKKE”」は、様々な商品をその場で少量ずつ試食できる場を提供することにより**顧客一人ひとりの「面白いもの見つけた！」というワクワクを「気に入った！」というワクワクへと繋げるお手伝いをする。**

利用イメージ

プレミアム会員



1500円のワインと1000円の生ハムと500円のドレッシングを購入し、シェア食品リストに追加しました。自分で選んだ食品を少し食べて、シェア食品リストにあった食品を色々食べて大満足でした。たまたまシェア食品リストにあったチーズを食べたら気に入ったので買って帰りました。

標準会員



無料会員に登録して、定期的にシェア食品リストをチェックしています。気になっていた高級ドレッシングがリストに入ったので店舗に直行して試食しました。予想通り美味しかったので購入して帰りました。

フードシェアカウンター “MIKKE” のシステム詳細

○サービス概要

- ・食料品店の店舗内にイートインカウンターがあり、会員はカウンターに好きな商品を持ち込んで食べることができる。
- ・単体では食事にならない商品は、最低限の調理をしてくれる。
→温めるものは温めてくれる。ふりかけにはご飯(有料)を付けてくれる。
ドレッシングにはサラダ(有料)を付けてくれる
- ・食べ残した食品は「シェア食品リスト」に追加されて他の会員とシェアされる。
- ・会員はシェア食品リストの中から好きな食品を試食することができる。
- ・シェア食品リストはwebでいつでも閲覧可能。

○会員制度

- ・会員は、基本利用料無料の標準会員と、月額利用料を払うプレミアム会員からなる。
- ・プレミアム会員だけが、シェア食品リストへ新しい食品を追加できる(後述)。

○シェア食品リストへの食品の追加

- ・店側やサプライヤーは、戦略的に客に訴求したい商品をシェア食品リストへ追加する。
- ・プレミアム会員は好きな商品を実店舗 or ネットで商品を購入し、シェア食品リストへ追加できる。

○シェア食品リスト内の食品の試食

- ・標準会員は、月ごとに決められた分量だけ、商品を自由に試食できる。
- ・プレミアム会員は、自身がリストに追加した商品の金額に応じた分量だけ、商品を試食できる。
- ・シェア食品リストに追加された食品は、最初はプレミアム会員のみが試食できる。保存期限が近づいた食品は標準会員も試食できるようになる。これにより、フードロス削減する。

既存顧客をよりワクワクさせる構造

気になる商品の味を確認するために、商品を購入する

輸入食品スーパー

—— 定説 ——→

気になる商品を試すために個別購入が必要

ギャップを埋める仕組み



フードシェアカウンター

“フードシェアカウンター”の導入により幅広く未知の食材にトライし、新たな“お気に入り”が見つかる場を提供。来店時のワクワクupを実現すると共に、必要な量だけ商品を手し試す仕組みでフードロス低減を実現する。

実現
したいこと

試して気に入らなかった場合フードロスにつながる。個別購入だとコストも高く気軽に試せない。

個別購入せずに多種多様な商品を試せる

新規顧客を獲得する構造

商品知識を有する
“食通”の顧客が楽しむもの

輸入食品スーパー

—— 定説 ——→

食通が楽しむもの

ギャップを
埋める仕組み



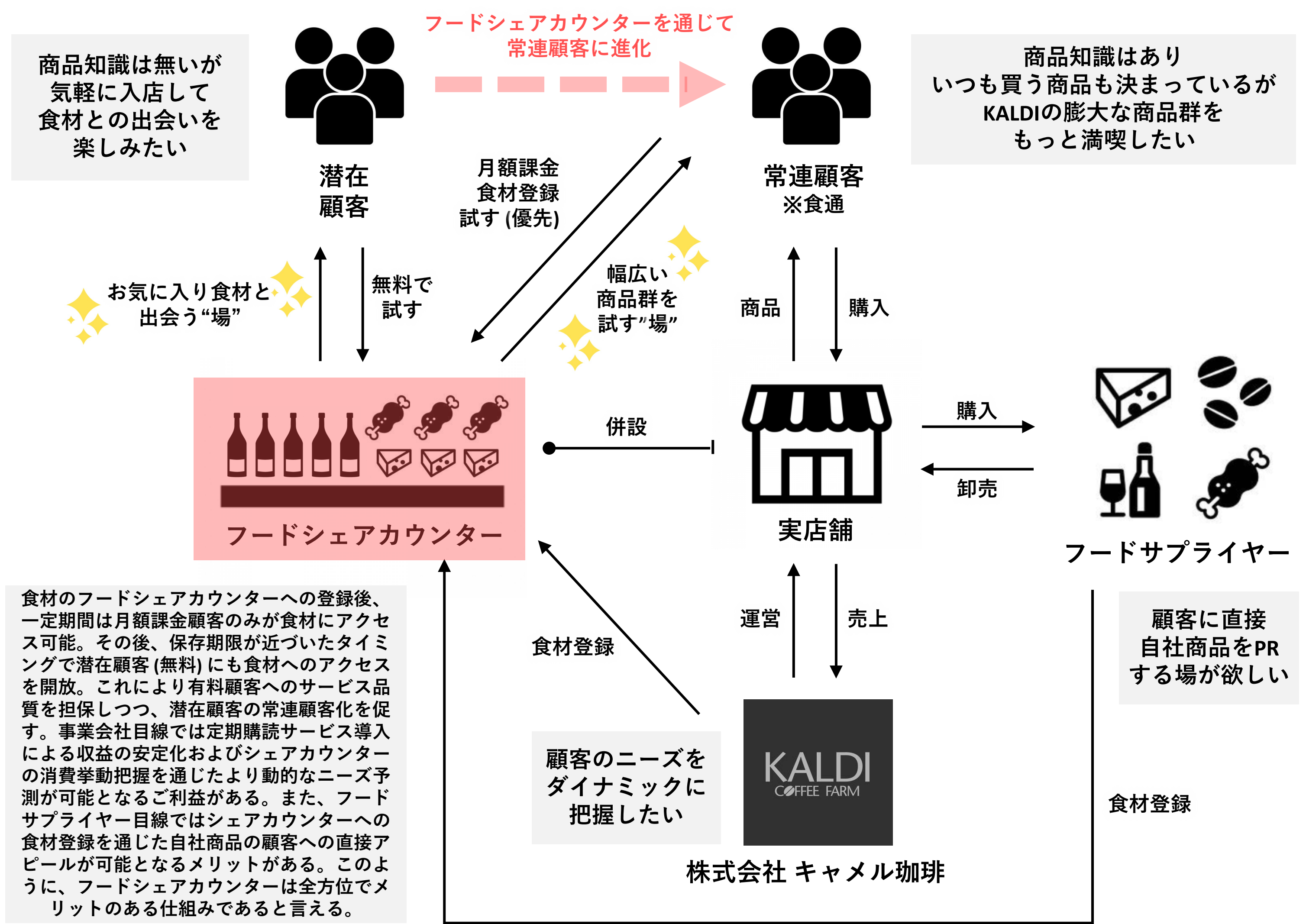
フードシェアカウンター

実現
したいこと

商品知識が無くても
気軽に入店して
食材との出会いを
楽しみたい

“フードシェアカウンター”の導入により、気軽に未知の食材にトライし“お気に入り”が見つかる場を提供。これまで入店をためらっていた層を顧客として取り込む仕組み。

食の知識が無くても楽しめる



イメージ図

フードシェアカウンター“MIKKE”

輸入食品スーパー

